

「気象庁防災情報 XML フォーマット」の誤りの修正等に伴う辞書と XML スキーマの修正、及びサンプル電文の修正・追加提供等について

平成 21 年 12 月 28 日に、「気象庁防災情報 XML フォーマット」の辞書等の変更に伴う XML スキーマの修正とサンプル電文の修正・追加提供についてお知らせしていますが、確認の結果、更に修正が必要となったことから、以下の通り辞書と XML スキーマを修正すると共に、併せてサンプル電文の修正・追加提供を行います。

1 辞書の修正点について

(1) ヘッダ部のスキーマの運用種別情報の追加と削除

「顕著な地震の震源要素更新のお知らせ」に対応するスキーマの運用種別情報として、“震源要素更新のお知らせ”を追加します。

また、「東海地震予知情報」「東海地震注意情報」「東海地震観測情報」のそれぞれに別のスキーマの運用種別情報を割り当てていたものを、“東海地震関連情報”に統一します。

(2) ヘッダ部の防災気象情報事項の種別の追加と削除

「震源・震度に関する情報」において、区域種別に関係なく防災気象情報事項の種別を“震源・震度に関する情報”としていたものについて、細分区単位の表現を“震源・震度に関する情報（細分区域）”、市町村単位の表現を“震源・震度に関する情報（市町村等）”としてまとめることにより区域種別に応じた情報の取扱いを容易にします。また、同じ防災気象情報事項の種別の“津波警報・注意報・予報”については使用しないことから削除します。

(3) 地震・津波分野の修正について

内容部直下に出現する震源要素（要素名“Earthquake”）の出現回数を、“?”（0 回か 1 回）から“*”（0 回以上）に変更します。

また、“type.CommentForm”の付加文コード（要素名“Code”）の基底型を備考欄の記述に併せて“xs:string”から“xs:list(xs:string)”に修正します。ほか、英字綴りに関連して、“type.CountData”の状況要素は要素名を“Conditon”から“Condition”に、親要素“type.HypoAreaDateiledCode”は“type.HypoAreaDetailedCode”にそれぞれ訂正します。

更に、上記修正を含めて、基底型“xs:string”のサイズについて、要素名“Condition”である全ての要素は 50 から 200 に、“type.IntensityStation”の子要素の震度階級（要素名“Int”）は 20 から 200 にそれぞれ変更します。

2 XMLスキーマの修正点について

(1) スキーマ本体

今回の修正に際して、注釈行以外で修正しているのは“jmx_seis.xsd”のスキーマのみで、修正点は以下の通りです。

- XML スキーマ“jmx_seis.xsd”において、“<xs:complexType name="type.Body">”に属する“<xs:element>”の属性“name”の値が“Earthquake”である要素について、属性“maxOccurs”の値を“1”から“unbounded”に変更。
- XML スキーマ“jmx_seis.xsd”において、“<xs:complexType name="type.CommentForm">”に属する“<xs:element>”の属性“name”の値が“Code”である要素について、属性“type”の値を“xs:string”から“jmx_seis:list.type.CommentForm.Code”に変更。
- XML スキーマ“jmx_seis.xsd”において、“<xs:complexType name="type.CountData">”に属する“<xs:element>”について、属性“name”の値が“Conditon”となっているものを“Condition”に変更。
- XML スキーマ“jmx_seis.xsd”において“<xs:complexType name="type.HypoArea">”に属する“<xs:element>”の属性“name”の値が“DetailedCode”である要素について、属性“type”の値を“jmx_seis:type.HypoAreaDateiledCode”から“jmx_seis:type.HypoAreaDetailedCode”に変更。
- XML スキーマ“jmx_seis.xsd”において、
“<xs:complexType name="type.HypoAreaDateiledCode">”を
“<xs:complexType name="type.HypoAreaDetailedCode">”に変更。
- XML スキーマ“jmx_seis.xsd”において、“<xs:schema>”に以下の要素群を追加。

```
<xs:simpleType name="list.type.CommentForm.Code">  
  <xs:list itemType="xs:string"/>  
</xs:simpleType>
```

(2) バージョンについて

今回の修正に際して、スキーマのバージョン管理上はマイナーバージョン変更と同じ位置づけとし、具体的には以下の通りの対応とします。

- 今回の修正により、全スキーマのバージョンを“1.0b”に変更します。
- 名前空間の変更は行いません。
- XML スキーマ上ではルート要素の注釈（“<xs:annotation><xs:documentation>”以下）において、バージョン情報の提供をするのみとします。
- XML インスタンス上では今回の対応に伴うバージョン情報の変更はありません。

3 その他の修正

上記の修正、及び気象警報・注意報の運用開始に伴い、警報等情報要素コード管理表と対象地域・地点コード管理表コード管理表を現状に合わせています。

また、以下の平文情報について、これまで内容部のお知らせ（要素名“Notice”）に記載していた内容を文章（要素名“Comment”）の文章の領域（要素名“Text”）に記載します。

対象：全般台風情報（総合情報、上陸等情報）、全般台風情報（位置、発生情報）、
発達する熱帯低気圧に関する情報、全般・地方・府県気象情報、スモッグ気
象情報、全般・地方・府県潮位情報、

4 サンプル電文の修正・追加提供

今回の辞書等の変更により、修正される電文の差し替えと、新たにサンプル電文の追加提供を行います。なお、サンプル電文の提供に際しては、差し替え対象と平成21年12月28日付で提供した電文に対する対応を明確化するため、これまで提供したのもも含めて再度提供いたします。

提供するサンプルファイルの一覧をサンプル整理表にまとめます。今回変更があるファイルについては、「更新状況」列に状況を記載しています。記述の無いものについては、前回提供のものと同じであり、修正等を行っておりません。

5 XMLスキーマとサンプル電文の検証について

今回の修正・追加提供に際しては、気象庁により「Multi Schema Validator Ver. 20080213」と「AltovaXML 2010 (AltovaXML Version 2010)」による検証作業を実施致し、良好であることを確認しました。